

優れた取り組み

アルメニアの公立学校における共同体ベースの能力育成

アルメニア

災害発生時、特に地震が発生した時に学校で授業を受けている子供たちにとっては大変危険な状態になる。アルメニア国立地震保護調査（アルメニア NSSP）機関は、コミュニティレベルで生徒と教師のニーズに取り組む教育および訓練プログラムを開発し、導入した。世界でトップレベルにある組織の経験を活かすことに特別な注意が払われた。

長期的な協力関係のあるアルメニア NSSP とアジア防災センター（日本、神戸）は、アルメニアの Syunik Marz（地方）の公立学校において特別活動を実施した。その結果、地震災害の認識が向上し、災害に対する対応と備えが周知徹底される結果となった。活動の主な目的は、学校の地震災害リスク軽減に関連するカリキュラムを統合し、校舎を改造して地震災害に耐えられるような安全な建築を促すことだった。活動の対象となるのは小学生と中学生、教師、両親、技術者、建築専門家、科学教育省、住宅および都市開発担当省、防災担当機関、地方当局、コミュニティ意思決定者である。2006年の11月14日から17日にかけて、アルメニアのNSSP、アジア防災センター、神戸市の専門家から成る調査チームが Syunik 地方 Kapan 町の調査研究協力校で講義と訓練を行った。

多くの参加者を得たワークショップの目的は、校長、教師、生徒の認識をコミュニティレベルで向上させ、より安全な学校を実現し防災教育を提唱することだった。神戸市教育委員会の松崎氏は1995年の阪神淡路大震災の貴重な経験について語り、日本人が神戸の壊滅的地震とその後の被害の広がりに対してどのように立ち向かってきたか、都市に現実起こったことを話し、聴衆に実演しながら状況の経過を説明した。



Syunik 地方 Kapan 町 N 1 校での訓練

Alvaro Antonyan 博士は、1998年の Spitak 地震から得た教訓を紹介し、住民が適切に保護されなかったこと、通常的生活様式を守るために必要な対策を立てることはアルメニアの命運をかけた最優先事項となるべきであること、国民を援助し地震に備えるための特別な支援業務、すなわち国立地震防災研究所がアルメニアに説立されたことを語った。

さらに、2006年12月には、Spitak 地震の18周年にあたって行われた活動において、アルメニア NSSP の専門家が公立学校で、日本の大学から提供された教材を使用して特別な訓練を実施した。絵は日本風だったが、子供たちは与えられた状況を想像し、彼ら自身で問題の解決策を考えることができた。

現在、この教材をコミュニティレベルで配布して演習に使用することが決定し、一方で日本のガイドラインにしたがってアルメニア語の教材を制作中である。

アルメニア共和国の公立学校における教育プログラムは、地元または外国の専門家によって作成されたさまざまな方法、すなわちカラーの本、ビデオ、ゲーム、コンピューターゲーム、対戦型ゲーム、議論、セミナーその他によって行われている。このプログラムの目的は、教育的活動を増やし、ケーススタディ

によって教師および生徒の地震に対する備えの能力を強化するとともに、学校の安全や地震災害リスクの軽減においてより良い影響をもたらすという認識を浸透させ、備えを怠りなくさせること、体験的訓練を行うことである。



「阪神淡路大震災すごろく」、Yerevan の N189 校における訓練

—背景

地震災害コミュニティベースのリスク軽減

—目標

生徒と教師に地震への備えを徹底させること

—期間・期限

9ヶ月

—実施した活動

教材の開発と導入

—主な成果

地震に対する認識の向上と備えの徹底

—予算総額

9,950 米ドル

—連絡先

アルメニア国立地震防災研究所所長 Alvaro Antonyan 博士 (PhD)、Davidashen massive 4, 375054, Yerevan, Armenia

電話番号：374 1 28-64-94,

ファックス番号：374 1 36-62-80

Eメール：president@nssp.gov.am